

授業科目名 <英訳>	現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 高木 博志					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	古都の近現代										
【授業の概要・目的】											
奈良・京都の古都とは、かつて天皇が住んだ旧都であり、近代天皇制の課題である。昨今、空前の古都観光ブームで、2013年には5000万人を超える京都市観光客であり、「京都検定」、大学の「京都学」も盛んである。こうした観光言説としての古都論を批判的に見て、近現代における「歴史」「伝統」「古代」の意味を通史的に考えたい。また古都イメージの起源（京都＝「日本文化」、「雅」、「貴族」、「町衆」、奈良＝「天平文化」、「日本のギリシャ」）を近現代史を通じて考えたい。後期は主に20世紀の古都を取り上げるが、扱う問題は、政治・美術・文化財・観光・儀礼など多岐にわたり、具体的には授業計画を参照されたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できるように指導する。古都の近現代について、授業とフィールドの両面から、理解を深めるようにする。											
【授業計画と内容】											
1 , 「日本文化」のなかの奈良・京都 ・ 宝物調査・帝室博物館・古社寺保存法 美術・文化財の「制度化」 ・ 帝国博物館のコンセプト 東京・京都・奈良 ・ 第四回内国博覧会・平安遷都千百年記念祭（1895） ・ 1900年、パリ万国博覧会 パビリオン、ジャポニズム、『稿本日本帝国美術略史』 ・ 名所の近代的再編（吉野山と桜、宇治・嵯峨野と古典文学） など 2 , 大衆社会と古都 第一次世界大戦後の社会へのひろがり ・ 大正大礼（1915）と昭和大礼（1928）の段階性と、古都の変化 ・ 1919年史蹟名勝天然記念物保存法 嵐山・吉野山・月ヶ瀬・平城京 ・ 黒板勝美による帝国の中の文化財行政 ・ 1920年代以降の天皇制の荘厳化 陵墓・神社景観・御物の制度化 ・ 紀元2600年祝典と橿原神宮 など 3 , 戦後社会と古都 ・ 関東大震災・空襲・ウォーナー伝説 帝都の破壊と古都へのノスタルジー ・ 法隆寺と文化財保護法、文化国家 ・ 象徴天皇制と古都 文化・「伝統」・儀礼の政治 ・ 世界遺産と文化財保護法 ・ 「さあ、京都行こう」、21世紀の観光 など											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店)

**[授業外学習(予習・復習)等]**

東山、嵯峨野、京都御苑、神武陵など、古都の近代に関わる巡見を希望者で行う。

**(その他(オフィスアワー等))**

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。